

(様式2)

## 健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 朝来健康福祉事務所

### 1 食育推進体制の整備

|          |  |
|----------|--|
| 食育推進課題   | <p>[高齢世代]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>管内の高齢化率は県や全国平均より高く、要介護認定率(65歳以上)は養父市21.8%、朝来市23.0%である。また、介護度別認定者数の構成比をみると、両市とも要支援の割合は増加傾向である。</li><li>但馬圏域では、食習慣を改善することに関心がない(改善するつもりがない)と考えている者の割合が半数を占めており、全県と比べても高いため、健康関心度に関わらず、高齢期の低栄養・フレイル予防を進めていくために食環境づくりを進めていく必要がある。</li><li>前年度、管内移動販売事業者を対象に実態調査を行った結果、いずれの事業者も利用者の健康に配慮した取り組みの必要性は感じていた。</li></ul> <p>[若い世代]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>若い世代を対象とした事業は管内各市でも十分に実施できていないため、実態把握を通して今後の推進方策を検討する必要がある。</li></ul> |
| 今年度の推進方策 | <ol style="list-style-type: none"><li>地域住民の低栄養・フレイル予防に向けて、「情報へのアクセス」「食品へのアクセス」双方の視点から対策を検討する。</li><li>高校生を対象とした食生活に関するアンケートの実施により、若い世代の食生活に関する実態把握・課題抽出を行い、今後の取組内容に向けた基礎資料を得る。</li></ol>   |
| 成果       | <ol style="list-style-type: none"><li>関係機関・団体(事業者)と協働したモデル地区での検証や協議を通じて、低栄養・フレイル予防に繋がる食環境づくりに向けた共通理解を得ることができた。</li><li>今後の若い世代を対象とした取り組みの検討に向けた基礎資料を得ることができた。</li></ol>  |
| 今後の方向性   | <ol style="list-style-type: none"><li>地域主体の食環境づくりの推進に向けて、随時、関係機関・団体への助言・支援等を行う。</li><li>管内各市等への結果共有を行うとともに、若い世代を対象とした取り組みを検討する。</li></ol>  |

### 2 会議の開催状況

|                      |  |
|----------------------|--|
| 実施日時                 | 令和8年1月13日(火) 10:30~12:00   |
| 参集者<br>(団体数<br>及び人数) | 養父市4名(健康医療課3名、地域包括支援センター1名)、<br>栄養ケア・ステーション但馬(以下、栄養CS但馬)登録栄養士1名、<br>管内移動販売事業者1名                            |
| 協議内容                 | 低栄養・フレイル予防に繋がる持続可能な食環境づくりについて  |
| 今後の方策                | 情報アクセス整備を進める上で、いずみ会から協力を得ることが必要と考えられるため、会員自身が地域の健康課題に応じた活動を自主的に進められる仕組みを市などと検討する。(その他関係機関・団体が行う事業との連携も必要。) |

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

### 3 食育実践活動の結果

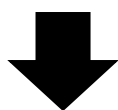
|                          |   |  |  |
|--------------------------|---|--|--|
| テーマ                      | ①② 若い世代の食育・健康づくり<br>③～⑤ 高齢世代の低栄養・フレイル予防に向けた食環境づくり   |  |  |
| 対象及び参加者数                 | ①② 但馬地域に所在する県立高等学校に通学する生徒 3,065名<br>③ 地域住民（移動販売利用者等）9名<br>④ 地域住民（移動販売利用者等）10名<br>⑤ 管内移動販売事業者 5社   |  |  |
| 事業内容                     | 日時・場所   | 内 容  | 講師・運営スタッフ                                      |
|                          | ①令和7年10～11月<br>但馬地域県立高校   | 食生活実態アンケート調査の実施                                      | 豊岡健康福祉事務所<br>朝来健康福祉事務所                         |
|                          | ②令和7年2月<br>但馬地域県立高校   | ①の結果を踏まえたリーフレット配布（豊岡健福作成）                            |  |
|                          | ③令和7年11月4日<br>11:00～12:00<br>養父市A地区   | 低栄養・フレイル予防に関する講話及び移動販売の場を活用した啓発（POP掲示）<br>※栄養CS事業と共催 | 朝来健康福祉事務所<br>養父市<br>栄養CS但馬<br>移動販売事業者1社<br>各区長 |
|                          | ④令和7年11月18日<br>10:45～11:45<br>養父市B地区  |  |  |
| ⑤令和8年3月<br>管内移動販売事業者（5社） | ②③を踏まえた移動販売事業者への情報提供（リーフレット等）<br>・惣菜や既製品の活用、たんぱく質を増やすためのポイント<br>・弁当を活用した共食機会の提案<br>・③④で用いた啓発資材の提供   | 朝来健康福祉事務所<br>栄養CS但馬                                  |  |
| 成 果                      | [若い世代：①②]<br>・次年度以降、若い世代を対象とした取り組みを検討するための基礎資料を得ることができた（n=1,725（回収率56.3%））。<br>・アンケート内容は、各市町や各校の意見も反映した。<br>・全校生徒へのリーフレット配布により、高校生でも取り組みやすい食生活のポイントを啓発することができた。<br>[高齢世代：③～⑤]<br>・多領域・多職種と協働して企画～実施し、食環境づくりの推進に向けた共通理解を得ることができた（市として取り組みを推進することへの理解が得られた）。<br>・上記内容について、いずみ会や市社協（食品アクセス整備を実施）等への情報共有を行い、健康に配慮した取り組みの働きかけを行った。 |  |  |
| 今後の課題                    | ・各市や学校と連携した若い世代の食育推進<br>・各市における地域の実態を踏まえた食環境づくりの検討や推進   |  |  |

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

## 誰もが健康に生活を送ることができる地域を目指して

### 地域の現状

- ① 管内の高齢化率は、県・国より高い。  
（R7 養父市 41.6%、朝来市 37.7%）
- ② 介護度別認定者数の構成比をみると、養父市・朝来市ともに要支援の割合が増加傾向。
- ③ 但馬圏域は、自身の食習慣を改善することに関心がない者の割合が全県と比べて高い。



誰もが健康的な食生活を送るためには、  
そのために必要な情報と食品をどちらも手に入れることができる**食環境づくりが必要！**

そこで本事業では、

- **高齢世代の低栄養・フレイル予防**に着目
- **買い物手段のうち、「移動スーパー」**との連携した食環境づくりを検討  
（都市部と異なり、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの食品を購入できる場所が限られている地域では、移動スーパー含む移動販売が大切な買い物手段であるだけでなく、コミュニケーションの場にもなっている。）

実施内容は次のページ



（高齢世代への取り組みに加え）

今後、「若い世代への食育・健康づくり」も検討していくために、**但馬地域の高校生を対象とした食生活実態アンケート**を豊岡健康福祉事務所と協力して実施し、1725名の高校生に回答頂きました。

今回得られた結果をもとに、進学・就職後も健康的な食生活を送ることができるよう、関係機関と共に食育推進方策を検討していきます。

〈結果の一例〉

- ✓ 朝食を食べる習慣のある生徒は約7割。ただし、主食に偏っている生徒が多い。等

# 移動販売事業者と連携した 低栄養・フレイル予防のための食環境づくりの検討

## 令和6年度「管内事業者を対象とした移動販売に関する実態調査」

〈結果（一部抜粋）〉

- ・利用者の年代・性別は、**70代以上・女性**が多い。
- ・いずれの事業者も、ほとんどの種類の食品を取り扱っているが、中でも**弁当・惣菜**の購入頻度が多い。
- ・事業者として、健康に配慮した取り組みの必要性は感じている。  
(たんぱく質が摂れるよう使用食材を意識する、商品陳列の工夫（通常商品と減塩商品を並べて陳列）等、既に取り組んでいることもある。)



今年度は、地域で検証

## 令和7年度「モデル地区における検証」

養父市の2地区をモデルとして、市や**栄養ケア・ステーション但馬**、**移動販売事業者1社**と協働して、低栄養・フレイル予防のための普及啓発を実施しました。(実施にあたり、各区長にもご協力頂きました。)

※実施結果を踏まえて今後の方向性について協議を行うとともに、事業者に対して情報提供（提案）を行いました。

### ① ミニ栄養講話



栄養ケア・ステーション但馬（栄養CS）の管理栄養士が講師となって、簡単にできる食事のポイントなどをお伝えしました。

【参加者アンケートより】

この地域では、健康的な食生活を送る上で参考となる情報を得る場所として、「食品を購入する場所」が「家族」や「新聞」と同程度であることが分かりました。(最多は「テレビ・ラジオ」)

今後は、地域に密着した食育活動を行ういずみ会などの地区組織との連携・協力が食環境づくりの推進に向けて必要と考えられます。



### ② 移動販売の場における普及啓発



「1日に必要なたんぱく源（主菜）の目安」や「食品選択のポイント」などのPOP（栄養CS作成）を移動販売車の売り場に掲示しました。(相談のある方には管理栄養士が個別に対応しました。)

【協力事業者より】

利用者からPOPについて聞かれることもあり、その都度販売員よりお伝えしています。

後日、講話の内容を活かして、弁当などの販売を行っています。

- 管内の他の移動販売事業者でも同様の取り組みを行っていただけるよう、本事業で配布したPOP等を提供しました。
- 「買い物＝外出機会」となるため、併せて「共食」の機会を創出することでフレイル予防に繋がると考えられます。